



プレスリリース

聖徳太子御忌日記念 特別公開

国宝・天寿国繡帳と聖徳太子像

2006年3月14日(火)~4月9日(日)

法隆寺宝物館 第6室

旧暦の2月22日は聖徳太子の忌日にあたります。これにちなんで、奈良・中宮寺所蔵の天寿国繡帳(てんじゅこくしゅうちょう 国宝)が特別公開されます。今回は、法隆寺東院の絵殿(えでん)に納められていた聖徳太子像(重文、法隆寺蔵)と絵殿の壁を飾っていた聖徳太子絵伝(国宝、東京国立博物館蔵)もあわせて展示されます。聖徳太子にゆかりの深い作品を早春の法隆寺宝物館でゆっくりとお楽しみいただく貴重な機会です。



国宝 天寿国繡帳 飛鳥時代 7世紀 奈良・中宮寺蔵



国宝 天寿国繡帳(部分) 飛鳥時代 7世紀
奈良・中宮寺蔵

天寿国繡帳とは

天寿国繡帳は伝世品としては最古の刺繍です。現状は飛鳥時代に制作された旧繡帳と鎌倉時代に模造された新繡帳の残りのよい部分を江戸時代に貼り交ぜて一枚の繡帳にしたものです。意外なことに、鮮やかな色彩で残っているほうが飛鳥時代の旧繡帳です。

繡帳にあらわされた亀の甲羅には4文字ずつ、銘文が繡われています。当初、亀は百匹、文字にして400文字あったといわれ、その全文を写したものが「上宮聖徳法王帝説」(じょうぐうしょうとくほうおうていせつ)に記されています。それにより、推古30年(622)に聖徳太子が亡くなられ、妃の橘大郎女(たちばなのおおいらつめ)が、推古天皇に願い出て、太子が往生した天寿国のありさまを刺繍によって表したものであることがわかります。下絵を描いたのは渡来系の人物、刺繍は宮中に仕えた采女たちが行いました。撚(よ)りの強い糸を用いて図様の輪郭線を縁取り、内部を緻密に表す技法は、飛鳥時代の刺繍の特色をよく表しています。

広報用の写真・取材のお申込みは

東京国立博物館広報室 (Tel:03-3822-1111 Fax:03-3822-0086) まで

その他の展示作品

重文 聖徳太子像(七歳像)

円快作 平安時代 11世紀 奈良・法隆寺蔵

聖徳太子絵伝が障子絵として描かれた法隆寺東院の絵殿に安置された童子形の聖徳太子の像。像内に記された銘文から、仏師円快(えんかい)が彫刻し、聖徳太子絵伝の筆者秦致貞が彩色をしたことがわかります。張りの豊かな典雅な顔立ち、衣文のゆるやかな曲線とその重なり、ゆったりと構えた体軀の造形などは、平安後期における藤原和様彫刻の洗練を極めた表現です。



国宝 聖徳太子絵伝

秦致貞筆 平安時代 11世紀 東京国立博物館蔵

もとは法隆寺東院の絵殿を飾っていた障子絵で、延久元年(1069)に摂津の国の絵師、秦致貞によって描かれました。大きな立涌文の綾地に、太子生涯の事跡を絵物語にまとめたもので、現存する太子絵伝のなかでもっとも古く、作風と規模においてももっとも優れています。初期やまと絵の代表作にあげられます。(図版は部分)

【開催概要】

聖徳太子御忌日記念 特別公開

国宝・天寿国繡帳と聖徳太子像

2006年3月14日(火)～4月9日(日)

東京国立博物館 法隆寺宝物館第6室(上野公園)

開館時間：9：30～17：00 3月31日(金)・4月7日(金)は20：00まで、4月中の土・日は18：00まで開館(入館は閉館の30分前まで)

月曜休館

当館平常料金でご覧いただけます。

*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際障害者手帳などをご提示下さい。

★3月11日～4月16日は春の庭園開放

あわせて春の美術館めぐりの企画などでいかがですか？

主催：東京国立博物館

お問合せ：03-5777-8600 (ハローダイヤル)

ホームページ：<http://www.tnm.jp/>



国宝 天寿国繡帳(部分)

飛鳥時代 7世紀

奈良・中宮寺蔵

広報用の写真・取材のお申込みは

東京国立博物館広報室 (Tel:03-3822-1111 Fax:03-3822-0086) まで